【小学校·中学校·義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

伊万里市立波多津小学校

- **運成度(評価)**A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

評価結果の概要

学校名

・いじめ問題への対応では、アンケート調査や個人面談などで早期発見、早期対応に努めることができた。また、特技集会などの取組により、児童の自己肯定感を高めることができた。 ・課題であった「元気な挨拶」については、年間を通して様々な手立てを打ったことにより児童の意識の高まりが見られた。その意識の高まりを行動につなげていくための更なる取組が必要である。 ・地域の素材を生かした学習活動にとくに力を入れた。一年を通して、地域の方々との積極的な交流ができ、地域のよさを感じ取っている児童も多い。

学校教育目標

は:励んで光る た:愉しんで光る つ:つながって光る

本年度の重点目標

- 思考力、判断力、表現力の育成を目指した授業の創造を図る。
- 自他の生命や人権を尊重する心、自己肯定感・自己有用感の育成を図る。

重点取組内容·成果指標)共 通評価項目				中間評価		5 最終評価				
								W		主な担当者
	重点取組成果指標		┃ ■ 具体的取組	准址库	中間評価		最終評価		学校関係者評価	7.61238
評価項目	取組内容	(数値目標)		進捗度 (評価)	進抄仏流と光通し	達成度 (評価)	夫 胞柘未	評価	意見や提言	
- M. I F. I	〇算数科を中心とした確かな学力の 定着	○既習内容を基に考えた自分の考え を発表し、友達の発言に反応する児童 80%以上	・校内研において「授業展開の工夫」「練り合う過程の 充実」を中心におき、促進を図る。 ・下学年、上学年、特別支援の3グループに分かれ、 それぞれのグループで授業を見せ合う。 ・スキルタイムでは、計算プリントやAI型ドリル(eライ ブラリ)を活用し、基礎基本の定着を図る。	В	・校内研において「見て見てウィーク」を設定したことで、授業展開 の工夫したことを互いに見せあうことができた。しかし、練り合う過程を充実させることが、今後の課題である。 ・スキルタイムでは、計算プリント等を活用し、授業や習熟の場面 では、A型ドリルを活用して基礎基本の定着を図っている。	A	- 2学期も見て見てウィークを実施し、練り合う過程を中心に授業 展開の工夫を行った。それにより、友達の発言に反応する児童は 95%と成果をあげることができた。さらに、聞く視点をはっきりとさ せて意見を聞いたり、友達の意見をもとに発言したりする力がつ いできた。 - スキルタイムでは、AI型ドリルを繰り返し活用したことで、基礎基 本の力が定着した。	A	・授業の工夫がよく分かった。 ・算数ができるということは、物事をしっかり考えて順序立てて 行動できるようになるので、繰り返しの授業の実践は良いこと だと思う。対応力を養うことも素晴らしいことだと思う。 ・友達の発言に反応する児童95%はすばらしいと思う。実際の 様子を参観したい。	・研究主任 ・学力向上対策コー ネーター
●学力の向上	○家庭学習の充実	〇児童・保護者アンケートで「集中して 家庭学習に取り組んでいる」と答える 児童・保護者ともに80%以上	・課題の出し方(質・量)や自主学習の進め方など、家庭学習に関する職員の共通理解を図る。 ・自ら取り組みたくなるような家庭学習の工夫を行う。 ・家庭と連携して取組を進め、帰宅後の有効な時間 の使い方を考えさせ、学習習慣の定着を図る。 ・「スタディウィーク」「ノーメディア・家誌ウィーク」を設定する。	В	・学年に応じて家庭学習の工夫をすることで、児童は家庭学習に 集中して取り組む事が出来た。 ・「自ら取り組みたくなるような家庭学習の工夫」については、職員 の共通理解を図り、取り組んでいくことが課題である。 ・スタディーウィークやソーメディア・家族ウィークを設定し、家庭と 連携した取組をすることが出来ている。	В	・学年グループで家庭学習についての情報交換や話し合いをする 機会を設けた。それにより、高学年では自分の課題を見つけて自 主学習に取り組む児童が増えた。 ・/ーメディア・家族ウィークは、どの学年も90%以上の実施ができ た。スタディーウィークでは、実施率が85%となっているが、保護 者アンケートでは「集中して家庭学習に取り組む」が69%となって おり、今後の課題である。	В	 ・青嶺中学校区そろえてスタディウィークや家誌に取り組んでいるのはよいことだ。 ・家誌については、心の教育での取組とした方がよいのではと感じた。 ・家庭学習においては、自主性が大事なので、継続して取り組んでほしい。 	・研究主任・学力向上対策コーネーター
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫 理観や正義感、感動する心など、豊 かな心を身に付ける教育活動	〇生活アンケートによる相手を思いやる言葉遣いができる児童95%以上	・集会活動(平和集会、人権集会、特技集会等) や道徳等の授業実践により、自他ともに大切にし ようとする心を育む。 ・「すてきボスト」に全校で取り組むことで、自己肯 定感の向上につなげ、友達のよさに目を向ける 児童を育てる。	A	・平和集会で各学年の平和の誓いを立てたことで思いやりのある 行動について考えることができた。また、縦割り班活動やいこにこ フェスタを通し、優しい言葉造いや協力することへの意識が高まっ てきている。その結果、生活アンケートで「友達に思いやりのある 態度や言葉づかいで接している」と回答した児童が94%となった。 ・すてきポストは児童中心の活動にしている途中である。今後も自 己肯定感の向上に向けて取り組んでいく。	A	・人権の花の取組や人権教室、各学級での道徳の授業等において人権学習を行うことで、思いやりのある行動について考えることができた。その結果、アンケートで「友達に思いやりのある態度や言葉づかいで接している」と回答した児童が97%となった。 「すてきポスト」は、委員会活動で児童がすてきカードを作ったりカードの内容を放送で紹介したりするなど、児童中心の活動になってきた。	A	・思いやりのある子が増えてよかった。 ・子どもたちの自己肯定感を育むために、様々な取組をされていていることが分かった。 ・数値目標95%はかなり高いと思うが、達成できてすごいと思う。 ・人を思いやる心、気持ちをもち、それを言葉にできるのはすばらしいと思う。	·人権·同和教育担: ·道德教育推進担当 ·文化·特活部主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	〇保護者アンケートの「いじめに対する学校の取組」の評価を85ポイント以上	・心のアンケート(1回/月)と個別の面談を定期的 に行い、いじめ等の早期発見、早期対応に努め る。 ・職員連絡会で気にしたい子の報告をして共通理 解を図って対応する。	A	・心のアンケートを9月に実施し、児童の悩みや不安の把握に努めた。10月からは毎月実施する。課題発生時は、その都度対応をしている。 ・気になる子への対処はよくできている。職員間の連絡も十分行われていて早期対応ができている。 ・支速の名前の呼び方で、呼び捨てやあだ名をなくす指導を行った。 呼び方が定義しているため改善にやや時間を要しているが、指導により改善が見られてきている。	A	・心のアンケートを毎月継続して実施し、生活アンケートも行うことで、児童の悩みが不安に気付えとができ、その都度対応することができた。学校評価児童アンケートで、「学校が楽しい」と回答した児童は92%、「そう思わない」は8%であった。 ・学校評価保護者アンケートで、「わが子はいじめを受けていなしい」と回答した保護者は99%、「そう思わない」は1%であった。	A	・いじめの早期発見でアンケートは有効だと思った。今後もこう いった取組を継続していってほしい。 ・全員学校に行くのが楽しみになってほしい。 ・「そう思わない」児童への対応はどうされているのかを知りた い。 ・適時のアンケートや日頃の児童との対話等、心配りが感じら れる。	***
		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童 75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と 回答をした児童70%以上	・職員が見つけた児童のよさや頑張りを「すてき ポスト」で全校に紹介する活動を積極的に行う。 ・キャリアパスポートを活用し、教科や行事、体験 活動と関連付けた指導を行う。 ・自分の将来の夢や目標について考える授業を 計画的・積極的に行う。	В	・よいところを認めてくれると思う児童が95%であった。職員だけでなく、児童同士で良さや頑張りを「すてき水ス」で紹介することが 出来た。しかし、自己肯定感が低い児童もいるため学級通信等を 活用し、意識して認めていく機会を増やすようにする。 ・教科や行事、体験活動と関連付けた指導が出来たが、キャリア パスポートの活用については課題である。 ・教育護演会で外部の講師を招聘し、夢や目標について考える機 会設けた。将来の夢を持っていると回答した児童80%以上だった。	A	・「先生はよいところを認めて代れる」と思う児童が95%で、「とてもそう思う」と回答した児童が増えた。「すてきれ入り、の取組が活発になったことや職員が意識して児童の良さや頑張りを伝えたことで、自分によいところがあると回答した児童の割合が高くなったと考える。 ・児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするために、学期や行事ごと「日標を立てたり6年生は授業で「夢」についての学習を行ったりした。アンケートでは、「将来の夢や目標をもっている」と90%の児童が回答した。	A	・児童が少ない分、先生方は児童一人一人をよく見ていただいていると感じる。 ・数値目標をかなり上回っており、児童は幸せだなと思う。 ・ほめる雰囲気を醸成し、同調したり、いろいろな気付きを伝えたりしていて、このような取組を今後も継続してもらいたい。	
	●望ましい食習慣と食の自己管理能 力の育成	●「健康に食事は大切である」と考え、平日に朝食を摂取する児童90%以上	・「健康に食事は大切である」と児童が認識するような取組を委員会で行う。 ・給食試食会や健康教育の授業を行い、保護者 も巻き込んだ取組を行う。 ・栄養教諭と担任が連携して、食育の授業を行う。	В	・委員会の仕事として、毎日の給食時間に献立の内容や一言お話を伝える事により、全校児童が給食の内容に興味を持つようになった。 ・試食会は1月の授業参観時に計画し、保護者や地域の方を招き、栄養士の話も取り入れ、食の大切さを学ばせる。 ・食育の授業を6月に3・4年生で実施した。食事の大切さについて学ぶことができ、好き嫌いなく食べようという意識が高まった。	A	- アンケートで「毎日駅食を食べてきている」と回答した児童が 98%、保護者アンケートでも94%と意識が高まった。 ・給食試食会を開催し、1年生保護者と地域の方に来ていただい た。歯の健康を中心に養護教諭から話をし、食の大切さについて 学ぶよい機会となった。 ・食育に関する授業や保健便り等の配付を全学年継続して実施し たことで、「健康に食事は大切である」と考える児童が93.3%と高 まった。給食の残菜もほとんどなく、しっかりと食べることができて いる。	A	・ほとんどの児童が朝食をとって登校しているようでよかった。 朝食はとても大切だと思うので、今後も「健康に食事は大切で ある」という指導を続けていってほしい。 ・毎日きちんと食事ができ、健康であることはいいことである。 ・給食試食会では、食べるのが遅い子も頑張って食べている 様子を見ることができた。	·食育推進担当 ·保体部主任
●健康・体つくり	〇目標をもって体力づくりに取り組む 教育活動	○天気のよい日には外遊びをした り一輪車の練習をしたりするなど、 進んで運動ができる児童90%以上	・健康委員会主催で、スポーツ・レクリエーションを行う。 ・健康タイムで一輪車の練習をしたり縄跳びをしたりに、児童の運動への意欲を高める。 ・昼休みに一輪車の遊具を出したり、一輪車カードを作成したりして、楽しく遊べるようにする。 ・県保健体育課実施のスポーツチャレンジを利用し、積極的に運動に関われるようにする。	В	・体育委員会主催で、1学期にドッチボール、2学期にボールあてを行い、3学期は一輪車棒リレーを行う予定である。縦割り紙で楽しく活動をすることができた。運営も委員会の児童で自主的にすることができた。 ・一輪車を意欲的に頑張るためにカードを作成したが、盛り上がりに欠けている。賞や目に見える掲示物などもっと児童の運動意欲を高めるようにする必要がある。 ・ 猛暑のため外遊びを奨励できなかったこともあり、外遊びをする児童がやや少なかった。 ・ スポーツチャレンジは、今後奨励していき、盛り上げていく。	В	「外遊びや一輪車の練習をするなど、進んで運動をしている」と 回答した児童は85%であり、中間評価よりも高評価となった。しか し、夏季は屋外での活動が制限されることが多々あり、来年度は 気温を考慮した活動を行うとともに、成果指標も見直す必要があ る。 ・健康委員会主催でスポーツフェスタを計画的に実施し、児童主 体で全校での運動の機会をつくることができた。 ・・輪車を練習する児童が「学期に比べると少なくなった。そのた め、来年度は児童の頑猥りを可視した掲示物や健康タイムで計 画的に活動を仕組むことで意欲的に取り組めるようにする。	A	・夏の暑さを考えて、屋外活動を制限されたのはよいことであり、A評価でよいと思う。 ・昼休みに一輪車のコースをつくったり、呼び掛けたりする準備が児童の負担となっているようであれば、改善した方がよい。その上で、外遊びが増えていくとよいだろう。 ・天候等で仕方ない部分もあると思うが、元気に外で遊んだり運動できたりしているのでよかった。	•保体部主任
) 業務改善・教職員の働き 5改革の推進	時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在 校等時間の上限を遵守する。	・業務記録票を基に勤務時間の管理を行い、超 適勤務時間が多い職員については、個別に指導 や支援を行う。 ・定時退動日の実質的な実践をする。 ・行事や会議の精選・効率化、時間短縮を進め る。	A	・時間外在校等時間の上限を、ほとんどの職員が遵守できている。前年度と比較すると、上半期は時間外勤務の平均時間を毎月削減することができた。 ・会議資料を3日前までに配付し、各自目を通しておくようにしたことの選進をもって話合いに臨むことができた。また、話合いの焦点を絞り、項目ごとの所要時間を設定することで、時間を意識し、効率よく話合いを進めることができた。	A	- 時間外在校等時間について、前年度比7%の削減ができ、その 上限をほとんどの職員が遵守できた。 ・行事の精選、会議の開始時刻の遵守及び話合いの効率化、定 時退勤日の設定等により、働き方改革への意識の高まりが見ら れた、職員由士で早めに退動するように声を掛け合う姿も見られ るようになった。「働き方改革を意識し、仕事に優先順位をつけ、効率的に仕事を進めることができた。」と回答した職員は93%で あった。	A	・働き方改革が進んでおり、昨年度以上に時間外勤務時間の 削減ができているようでよかった。 ・先生方も忙しい中、時間外勤務の減少となるのはすごいなと 思う。 ・時間外が制限される中、先生方大変だが工夫してやっていた だきたい。	• 管埋職
年度重点的に取り組む									W.14.00 to 4.7-	
評価項目	重点取組	成果指標	具体的取組	進捗度	中間評価 進捗状況と見通し	達成度	最終評価実施結果	評価	学校関係者評価意見や提言	主な担当者
○地域とともにある学校	〇地域の「人・もの・こと」を活用した 教育活動の推進	(教値目標) 〇各学年10以の地域人材活用 〇地域のよさを知り、地域に誇りや愛 着があると感じる児童90%以上	・年間カリキュラムを見通し、地域と連携した効果的な教育活動を計画する。 ・コミュニティセンターや地域団体と連携し、児童が地域を素材とした学習にスムーズに取り組むことのできる環境を整える。	(評価) A	を呼べんこを超し ・コミュニティセンターや地域団体との連携を積極的に行い、地域 素材を教料等と関連させた学習を展開することができている。地 域素材の発掘にも力を入れ、各学年で地域の人材活用をすることができた。 ・児童は地域のよさを感じ取り、中間アンケートでは約96%の児童 が、「これからもずっと地域の人・もの・ことを大切にしていきたい」 と回答した。 ・下期は、地域人材を知らせる「地域の方紹介ボード」を更に充実 させ、人材活用を推進していきたい。		・地域の関係者と学級担任との連絡体制を整え、地域素材を生かした学習を推進することができた。人材活用も活発にでき、学習等でお世話になった方は約80人であった。児童アンケートでは98%の児童が「これからもずっと地域の人・もの・ことを大切にしていきたい」と回答し、中間評価時よりも更に意識の高まりが見られた。 ・「地域の方紹介ボード」の充実を図ることができ、児童はお世話になっている地域の方の顔や名前を覚えることができた。		・私達も児童とのふれあいを楽しみにしている。何か地域でできることがあれば協力していきたいので言ってほしい。 ・数多くの地域とのつながりでいろいろな学習ができ、児童の意識も変わったのではた思う。 ・アンケート結果や学校便り等を見て、地域人材を生かすなど、積極的に学校経営がなされていると感じた。この調子で頑張ってほしいと願っている。 ・これからも地域とのつながりを強化してほしい。 ・子どもたちの指導は大変だと思うが、今まで通りの指導をお願しいたい。	·教頭 ·教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

総合評価・ 次年度への展望

・成果指標の設定に際し、具体的な行動や結果の数値目標を設定し、育てたい児童の姿をしっかりとイメージしながら指導に当たるようにした。全体的な評価結果として、全ての項目でAまたはBの評価となり、一定の成果が上げられたと考える。 ・しいじめ問題への対応では、アンケート調査や個人面談などにより早期発見、早期対応に努めることができた。また、職員連絡会で気にしたい子の報告を毎週行うことで、職員全体で共通理解を図って対応することができた。 ・「すてきポスト」などの取組により、児童同といのよさや頑張りを伝え合うことができた。また、職員も意識して児童のよさや頑張りを伝えたことで、「自分によいところがある」と回答した児童の割合が高くなり、児童の自己肯定感を高めることができたと考える。次年度は、今年度の取組を継続するとともに、更なる方策を取り入れていくこと

で、児童の自己肯定感、自己有用感を高めていきたい。 地域の「人・もの・こと」を生かした学習活動にとくに力を入れた。コミュニティセンターや地域団体との連携を積極的に行い、地域素材の発掘や地域人材の活用が活発にできた。それにより、地域のよさを感じ取っている児童も多い。次年度も取組を継続し、活動の充実を図っていきたい。 中間評価を適切に実施し、PDCAサイクルを効率的に循環させることで、学校教育目標の達成に向けて、教職員、保護者、地域の方々がかかわりを深めながら取り組んでいけるようにしたい。